

# R7年度 学校教育自己診断結果報告並びに考察

## 質問項目について

今年度の実施にあたり、設問数と設問内容については、昨年度と同様で実施した。

## 集計方法について

- ・回答数における比率を算出する方法のみとした。
- ・A:「よくあてはまる」+B:「ややあてはまる」を「肯定的評価」と捉える。
- ・C:「あまりあてはまらない」+D:「まったくあてはまらない」を「否定的評価」と捉える。
- ・「肯定的評価率上位3位」、「肯定的評価率が5ポイント以上上昇」、「学校経営計画に目標指標が設定されている項目」、この3点について着目した。

## 回収率

令和7年度

保護者 78.5% (小学部 91%、中学部 69%、高等部 67%)

教職員 100%

令和6年度

保護者 81.3% (小学部 84%、中学部 78%、高等部 80%)

教職員 100%

令和5年度

保護者 69.3% (小学部 68%、中学部 78%、高等部 61%)

教職員 100%

教職員の回収率は、今年度も100%を達成した。保護者の回収率は昨年度81.3%から約3ポイント下がった。提出締め切りの少し前に、安心安全メールを発出し、保護者向けに提出のお願いを改めて行った。その結果として提出数は増えたため、一定の効果はあったと考える。

次年度も教職員に対してはwebでの回答を継続し、保護者に対しては提出率維持のために紙媒体で取り組みたいと考える。

## 【保護者】 168名回答 (回収率 78.5%)

18項目の質問に対して13項目で肯定率80%を超えていた。(※昨年度14項目)。

## 肯定的評価率上位3位

1位【肯定率97.0%】《R6 96.2%》

「地震や台風などの場合、児童・生徒や保護者にその対応が知らされている。[85%以上]」

2位【同95.2%】《R6 90.4%》

「学校は、教育方針や教育情報について、ホームページや懇談などで情報を提供しようとしている」

3位【同94.0%】《R6 93.6%》

「授業参観や、学校行事に参加したことがある。」

⇒これらが肯定率の上位3つの項目となっている。昨年度も高水準ではあったが、今年の上位3つはどれも昨年度を上回る結果となった。このことから、日ごろから安心・安全メールなどを適宜活用して、保護者に情報提供を行うなどの、われわれの取り組みが評価されている証であり、大変喜ばしいことである。

## 肯定的評価率が5ポイント以上上昇

①「学校はホームページの学校ブログ等で子どもたちの様子を知る機会を設けている。[70%以上]」

(肯定率88.7%)《R6 82.7%》 = +6.0ポイント

⇒肯定率88.7%《R6 82.7%》、否定率3.0%で、目標指標の70%達成することもできた。昨年度に比べ、肯定的意見6.0ポイント増加し、否定的意見0.2ポイント減少と改善が見られた。今年度よりブログ記事のリンクを安心メールで周知していること、昨年度は三大行事、今年度から交流ブログを定期ブログの内容から外し、行事実施後すぐに掲載できるようにして、迅速に記事掲載ができるように仕組みを整備したことが、HP閲覧数増加などにつながったと考える。給食ブログ記事も工夫がなされ、肯定的意見の増加につながっていると考える。

②「学校は、子どもが他の学校の子どもたちと交流する機会を設けている。[75%以上]」

(同92.9%)《R6 87.2%》 = +5.7ポイント

⇒肯定率 92.9%《R6 87.2%》、否定率 2.4%で、目標指標の 75%を達成することができた。昨年度に比べ、肯定的意見 5.7%ポイント増加し、否定的意見も 2.7ポイント減少となった。肯定的意見に着目すると、R5 年から昨年も上昇し、今年も 5.7ポイント上昇し、結果として 2年で 17.5ポイントも上昇した。今年度も、交流を積極的に行うことだけでなく、ブログや連絡帳でもその様子をお伝えしたことがこの数値につながったと考えられる。

学校経営計画に目標指標が設定されている全 11 項目 ※○は達成=6/11 項目 ●は未達成=5/11 項目

- 「学校は、保護者のニーズを踏まえた教育活動に取り組んでいる。[90%以上]」では、肯定率 89.3%《R6 94.9%》、否定率 7.1%で、目標指標の 90%を達成することができなかつた。高水準を維持できてはいるが、目標とする 90%を達成することはできなかつた。来年度は達成できるように、保護者の意見に耳を傾け、真摯に対応していく必要があると考える。
- 「教職員は、子どもの障がいについて理解している。[90%以上]」では、肯定率 91.1%《R6 94.2%》、否定率 4.8%で、目標指標の 90%を達成することはできた。若干の減少は見られたが、概ね肯定的な意見をいただいている。この結果から、保護者から信頼を置いていただいていると考えられる。
- 「子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている(感じている)。[80%以上]」では、肯定率 76.2%《R6 78.8%》、否定率 4.2%で、目標指標の 80%を今年度も達成することができなかつた。しかしながら、否定的な意見は少なく、わからないと回答された方が 20%近くいたことがその要因と考えられる。わからないと回答された方を差し引きして計算すると、肯定的な意見は 95%である。引き続き楽しくわかりやすい授業実践を心がけて、目標の数値を達成できるように努めていく必要があると考える。
- 「教職員は、子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している。[90%以上]」では、肯定率 88.1%《R6 90.4%》、否定率 3.0%。R4 年度から継続して 90%以上の肯定的意見であったが、今年度は目標数値を達成することができなかつた。否定の意見も若干ではあるが増加している。「個別の指導計画」の様式を観点別評価、「手だて」、「評価」を書き分けられるようにして 4年が経ち、保護者にとっても見やすい様式になり、それが定着してきた結果とも考えられるが、88%という数値に甘んじることなく、より保護者に納得していただけるようにしていきたい。
- 「学校は、子どもの将来の進路や職業などについて、発達段階や実態に応じて適切な指導や助言を行っている。[80%以上]」では、肯定率 75.0%《R6 81.4%》、否定率 3.0%で、目標指標の 80%を達成することができなかつた。否定的な意見は少なく、わからないと回答された方が 20%近くいたことがその要因と考えられる。高等部に限れば、肯定的意見は 89.2%と高水準である。進路や職業に対する具体的なイメージがわきづらい他学部の意見が反映されたことが今回の結果の要因と考える。担任の先生方の取り組みや保護者との連携の充実、保護者が参加できるさまざまな取り組みも実施して参加者も増加しており、一定の成果にはつながっていると考える。今後も、多くの保護者に理解していただける企画などに取り組んで改善していきたいと考える。
- 「学校は子どもに 1人 1台端末(タブレット型 PC)等を効果的に活用している。[65%以上]」では、肯定率 46.4%《R6 56.4%》、否定率 9.5%、わからない 44.1%で、目標指標の 65%を達成することができなかつた。しかしながら、否定的な意見は少なく、わからないと回答された方を差し引きして計算すると、肯定的な意見は 83%である。現状としては、1人 1台の台数がない(※支援学校は R2 年度の配備から更新がない)ことによって、端末を持ち帰っていない分、地域の小学校や中学校とは異なることを、きょうだいがいる家庭などでは比較した結果、効果的に活用していないようにとらえる家庭が多いと感じる。また、個別最適な使い方ができているとは言い難い現状もあると考える。次年度は、各学部で児童生徒が個別最適な使い方を具体的にどのように活用していくかをテーマに継続していける取り組みを検討する。
- 「地震や台風などの場合、児童・生徒や保護者にその対応が知らされている。[85%以上]」については『肯定的評価率上位 3 位』で記載している。
- 「学校は大規模災害に備え迅速かつ適切な対応ができるよう、対策の検討と整備を行っている。[75%以上]」では、肯定率 84.5%《R6 87.2%》、否定率 0.6%で、目標指標の 75%を達成することができた。防災対策や整備については、まだ保護者に不透明な部分があるため、今後も学校ブログ等を活用するなどして周知して、目標達成を維持していきたい。
- 「学校は、施設・設備の点検、事故防止に配慮している。[70%以上]」では、肯定率 72.0%《R6 70.5%》、否定率 0%で、目標指標の 70%を達成することができた。学校ブログ等での周知が定着してきたことが、肯定的意見の上昇と目標達成につながったと考える。
- 「学校は、子どもが他の学校の子どもたちと交流する機会を設けている。[75%以上]」については『肯定的評価率が 5ポイント以上上昇』で記載している。
- 「学校はホームページの学校ブログ等で子どもたちの様子を知る機会を設けている。[70%以上]」については『肯定的評価率が 5ポイント以上上昇』で記載している。

**【教職員】 100名回答（回収率100%）**

28項目の質問に対して22項目で肯定率80%を超えていた。（昨年度も22項目であり今年度と同じ）。

**肯定的評価率上位3位**

1位【肯定率99.1%】《R6 95.0%》

「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。[70%以上]」

2位【同94.4%】《R6 94.0%》

「教職員は服務規律の遵守等、教育公務員としての自覚をもって勤務している。」

3位【同93.5%】《R6 95.0%》

「児童・生徒の実態をふまえ、指導内容や指導方法、学習形態の工夫・改善を行っている。[85%以上]」

⇒これらが肯定率の上位3つの項目となっている。昨年度も高水準ではあったが、上位2項目については、昨年度を上回る結果であった。次年度も維持しつつ、他の項目もこれらの結果に近づくようにしていきたい。

**肯定的評価率が5ポイント以上上昇**

①「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。[70%以上]」

（肯定率99.1%）《R6 85.0%》 = +14.1ポイント

⇒昨年度も大幅な改善であったが、今年度はさらに改善が見られ、より一層の教職員間の関係性が良好に保たれていると考える。

②「校内研修は、教育実践に役立つような内容となっている。[75%以上]」

（肯定率88.0%）《R6 80.0%》 = +8.0ポイント

⇒部別研修、研究協議の実施方法について見直しをしたことが、好結果につながったと考える。教員の負担を軽減しつつ、充実した内容の研修を実施して、次年度以降もこの水準を維持していきたい。

③「学校行事について教職員で話し合い、児童・生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫、改善、精選を行っている。」

（肯定率90.7%）《R6 83.0%》 = +7.7ポイント

⇒肯定的な意見が7.7ポイント改善、否定的な意見は10.4ポイント改善できたことから、昨年度より行事等の工夫や改善ができていていると考える。しかしながら、行事の在りかたについては、課題もあることから教職員・保護者の双方の意見を取り入れながら、さらにより良い形にしていきたいと考える。

④「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている。[80%以上]」

（肯定率86.1%）《R6 80.0%》 = +6.1ポイント

⇒支援自立活動部とも協力し、計画的に校内研修を実施することができている。次年度もこの水準を保つように努めていきたい。

⑤「学校は特別支援教育の「センター的機能の役割」を果たしている。」

（肯定率78.7%）《R6 73.0%》 = +5.7ポイント

⇒本校から地域の小中学校の教員と本校の教員向けに、北河内支援教育Labを昨年度より2回増やして、合計で4回実施した。地域からのニーズにもこたえ支援をしていることに加えて、北河内支援教育Labへの参加者の増加、地域支援への理解が進んでいることが、上昇結果につながっていると考える。また、本校の教員に対して業務内容の説明を周知することにも努めた結果も反映されたと考える。

⑥「いじめ（疑いも含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている。」

（肯定率82.4%）《R6 77.0%》 = +5.4ポイント

⇒定例会以外にも、担任や部主事などを中心としてこまめに情報共有を行い、必要に応じて臨時の委員会も開催した。委員会では事案の詳細や指導の方向性を確認し、早期に対応することができている。4.0から6.5ポイントと微増ではあるが、否定の意見が昨年度を上回っているため、次年度も情報共有を密に実施し、啓発活動にも力を入れようとする。

**学校経営計画に目標指標が設定されている項目** ※○は達成=9/11項目 ●は未達成=2/11項目

○「児童・生徒の学びを支援するため、学部間の連携が円滑に行われ、うまく機能している。[70%以上]」では、肯定率83.3%《R6 81.0%》、否定率12.0%《R6 17.0%》で、目標指標の70%を達成することができた。昨年度を上回る結果で高水準を維持し否定の意見の数値も改善ができた。継続して学部間の連携を充実させていきたい

○「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。[70%以上]」では、肯定率99.1%《R6 85.0%》、否定率0.9%《R6 12.0%》については『肯定的評価率が5ポイント以上上昇』で記載している。

- 「日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談しあえるような職場の人間関係ができている。[70%以上]」では、肯定率 80.6%《R6 80.0%》、否定率 14.8%《R6 16.0%》で、目標指標の 70%を達成することができた。今年度も教職員間の関係性が良好に保たれている結果と受け止めている。
- 「教職員間におけるセクハラ、パワハラ等の人権侵害事象が発生しないために啓発等を行っている。[85%以上]」では、肯定率 84.3%《R6 85.0%》、否定率 13.0%《R6 10.0%》で、目標指標の 85%を達成することができなかった。目標には届かなかったが、昨年度なみの水準は維持できた。ハラスメント対応窓口の周知については、職員室、職員更衣室、トイレなどよく見かける場所に掲示した。次年度は目標数値を達成できるように、アナウンスや啓発活動にさらに工夫をしながら継続していきたい。
- 「施設・設備について日常的に点検や管理が行われている。[75%以上]」では、肯定率 87.0%《R6 87.0%》、否定率 8.3%《R6 11.0%》で、目標指標の 75%を達成することができた。継続して安全点検後、修繕や改善に向けて依頼をし、各署で迅速に対応したことが、肯定的意見の維持につながったと考える。また否定意見の改善ができたのも、昨年度よりさらに各署、迅速に対応している結果であると考えている。
- 「児童・生徒の実態をふまえ、指導内容や指導方法、学習形態の工夫・改善を行っている。[85%以上]」では、肯定率 93.5%《R6 95.0%》、否定率 0.9%《R6 1.0%》で、目標指標の 85%を達成することができた。今年度も可能な限りノー会議デーを設定したことで、教員の授業への工夫・改善を行う時間の確保ができたと考えられる。また、伴走型支援事業の導入により、教員の余白時間を確保できる取り組みを進めている。今後もより改善していけるようにしていきたいと考える。
- 「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている。[80%以上]」では、肯定率 86.1%《R6 80.0%》、否定率 9.3%《R6 14.0%》については『肯定的評価率が5ポイント以上上昇』で記載している。
- 「校内研修は、教育実践に役立つような内容となっている。[75%以上]」では、肯定率 88.0%《R6 80.0%》、否定率 9.3%《R6 14.0%》については『肯定的評価率が5ポイント以上上昇』で記載している。
- 「初任者等、経験の少ない教員を校内で育成する体制がとれている。[60%以上]」では、肯定率 63.9%《R6 60.0%》、否定率 27.8%《R6 29.0%》で、目標指標の 60%を達成することができた。初任者研究授業ならびに研究協議を実施した。研究協議では、キャリアのある教員からの助言を初任者が聞く機会が設けられているため、目標数値を達成できたと考える。次年度に向けて、バディ制度をすべての教職員に向けて周知すること、初任者や経験の少ない教員の困りごとの分析を行いニーズを把握してサポートすることで、改善を図りたい。
- 「研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている。[75%以上]」では、肯定率 74.1%《R6 80.0%》、否定率 19.4%《R6 11.0%》で、目標指標の 75%を達成することができなかった。初任者研修や 10 年研修において得た学びを振り返りシートに記入してもらい、職員室前に貼り出しているが、その周知が不十分であったため、この結果になったと考える。次年度に向けて、振り返りシートの更新の周知頻度を増やすこと、研修の資料を閲覧しやすくするために研修資料ストックフォルダの開設を行い、更新の周知に取り組むことで、改善を図りたい。
- 「近隣の小・中・高等学校との交流の機会を積極的に設け教育活動全般にいかしている。[75%以上]」では、肯定率 83.4%《R6 84.0%》、否定率 7.4%《R6 6.0%》で、目標指標の 75%を達成することができた。近隣の小中高等学校との学校間交流については、今年度も各学部で内容をより充実させるよう計画し、実施することができた。居住地校交流についても、守口市門真市の教育委員会と連携し、各市の学校への周知を行い、相手校との調整をスムーズに行うことができた。このような取り組みからこの数値につながったと考えられる。